

令和 8 年度第 2 回

世田谷区立中学校部活動地域展開協議会

令和 8 年 7 月 28 日

午後 6 時 24 分開会

○事務局 それでは、令和 8 年度第 2 回世田谷区部活動地域展開協議会を開始いたします。

皆様、本日もお忙しいところ、本協議会に御出席いただきありがとうございます。

地域学校連携課、事務局を務めます渡部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の委員の出欠について御報告でございます。本日は土屋委員より欠席の御連絡をいただいております。出席委員は皆様 11 名となります。よろしくお願いいたします。本日の出席委員数により、世田谷区立中学校部活動地域展開協議会設置要綱の第 6 条第 2 項の定足数を満たしておりますので、御報告いたします。

なお、本日は、第 1 回の協議会を学校行事により御欠席されました世田谷中学校の稲委員が出席されておりますので、最初の御出席となります。恐れ入りますが、一言自己紹介をお願いできますでしょうか。

○委員 皆様、こんばんは。今回は欠席いたしまして大変失礼いたしました。すぐその世田谷中学校でこの 4 月から校長になりました稲と申します。私は音楽科でして、自分が学生時代から教員時代はずっと吹奏楽部をやっておりました。文化部の経験の視点から考えさせていただければなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

続きまして、お手元に配付いたしました資料を確認いたします。初めに、次第がございます。次第の下部に記載のとおり、本日の資料は、配付資料、基礎資料、参考資料の 3 種類となります。配付資料は事前に皆様にメールにて送付した資料と同じものを机上に紙で御用意してございます。

お手元の配付資料ですが、資料 1、本協議会の委員名簿、資料 2 が席の次第でございます。資料 3、世田谷区が目指す部活動の今後について、資料 4 が地域連携・地域展開に関するアンケート項目（案）について、資料 5、大会における部活動支援員の引率と大会参加経費の支給についてとなります。不足等がございましたら事務局職員までお申し出ください。

続いて、ファイルの資料ですが、前回配付いたしました基礎資料と同様となっております。詳細は次第に記載のとおりでございます。

最後に、参考資料ですが、世田谷区立中学校部活動大会参加経費等支給要綱、世田谷区

立中学校部活動支援員の設置及び活動に関する要綱になります。

また、本日の議事につきましても速記にて記録を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上となります。

では、ここから委員長に議事進行をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 皆さん、よろしくお願いいたします。

次第に従いまして、(1)世田谷区が目指す部活動の今後について、事務局より御説明をお願いします。

○事務局 では、引き続き私より資料3、世田谷区が目指す部活動の今後について御説明をいたします。お手元の資料を御覧ください。第1回の本協議会では、区の地域展開の進め方や地域クラブの在り方等について御議論をいただきました。改めて、第1回の内容の振り返りも含め、また、国や都の動向を受け、区が目指す部活動の今後についてまとめましたので、御報告するものでございます。

区では、令和5年度に実施した生徒、保護者、教員アンケートや部活動運営支援のモデル校での取組みの成果、課題を踏まえ、令和8年3月に世田谷区立中学校部活動地域展開の方針を改訂いたしました。今後は、1ページに記載の図のとおり、令和10年度までを第1段階として、平日・休日の地域連携を進めながら地域展開の考え方を整理し、その後、令和11年度以降は休日を中心とした地域展開を進めていく計画としております。

2ページ目にお進みください。区が目指す地域連携と地域展開の考え方をイメージとしてまとめたものでございます。それぞれの名称が似ておりますことから、改めて整理をいたしました。

左の図の地域連携は、学校部活動を大学生や地域の方など外部の人材が支援する仕組みとなります。現在進めているモデル実施では、スポーツ振興財団や教育委員会が人材バンクや指導者の配置調整を行い、部活動支援員が学校部活動の指導を担うことで、部活動の充実とともに教員の負担軽減を図っております。

右の図の地域展開とは、学校部活動としてではなく、地域団体が運営主体となり、地域クラブ活動として実施する仕組みです。現在もモデル実施している総合型地域スポーツ・文化クラブ、スポーツ振興財団等の取組みが該当いたします。学校部活動ではないものの、参加する生徒は学校部活動への参加と同様の取扱いをいただくようお願いをしている

ところでございます。今後の地域展開では、大学、企業などが活動を運営することとし、教育委員会が団体を認定する仕組みとする想定でございます。指導を希望する教員や外部指導者は地域クラブの指導者として携わることとなります。地域展開の現在のイメージとしては、用賀中学校女子硬式テニス部や弓道合同練習会等の取組みとなります。なお、地域展開における地域クラブ活動に参加する主体は中学生に限定されるものではない想定となります。このあたりの仕組みをどのように構築するのかについては、引き続き本協議会で議論が必要となります。

続きまして、3ページ目です。改めて、今後、地域展開を進める上で目指す仕組みについての確認です。教育委員会では、生徒が望む活動を学校と地域が支える仕組みづくりを目標に、大きく5つの視点から検討を進めることとしております。ここに記載の内容は3月策定の方針において地域展開の検討の視点として掲げた内容となり、(1)の教員が授業準備等に集中できる体制づくりから(5)の過度な負担を生じさせない運営体制の構築まで、5つの視点に基づいて本協議会で御議論いただくこととしております。なお、第1回では、地域クラブについての共通認識や教員の兼職兼業の課題共有等を行いました。

次に、資料4ページにお進みください。ここでは、次の5ページと併せまして、参考として国と都の動きについて改めてまとめております。

まず、国の動向といたしましては、現在、国では、地域クラブ活動を次期学習指導要領に位置づける方向で検討が進められております。地域クラブ活動は学校外の活動となりますが、学校部活動と同様に、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものとして位置づけられる見込みであり、学校を含めた地域全体で連携して進めていくことが重要とされています。

最後に、資料5ページの都の動向です。都においても、東京モデルとして、地域展開だけでなく、地域連携や拠点化、外部人材活用などを組み合わせながら、地域の実情に応じた持続可能な環境を構築する考え方が示されています。区では、一律に地域展開へ移行するのではなく、学校や部活動ごとの実情を踏まえながら、地域連携と地域展開を組み合わせ段階的に進めていく方針としております。

私から資料の説明は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。今御説明いただきました中身につきまして、少し御質問、御意見をいただく時間を取りたいと思いますが、その前に、今日は、この資料3よりも、資料4と5をかなり細かく御議論いただきますので、資料3については、事実確認も

含めて、細かなところというよりは大体おおむねこういうふうな流れですというイメージだと御理解いただければと思っています。

その上で御質問をいただければ幸いです。令和10年度のところまでは地域連携と展開がハイブリッドになっていくというイメージだということですね。

○委員 資料3の最初のところを見ると、地域展開に切り替える時期が、9年度、10年度で移行していく感じだと思うんですけども、実際に今、部活の支援をやりながらの中では、兼職兼業は前回もやったんですけども、支援が入っていくと、先生方は大分手を放すんですね。その指導の部分が離れていくのをすごく危惧してしまして、その辺が同時並行でもうちょっと早い段階からできないのかなと。今、9校やっていますけれども、来年10校になると、19校の先生方、やりたいという先生方がすごく多いのは僕らも聞いているものですから、そこを確保できる中で早めにその兼職兼業的なものを進めていけないかなという思いもちょっとあるんですけども、これだと9年度じゃないとやらないみたいな感じなんですかね。もし分かれば。

○事務局 兼職兼業につきましては、様々、年度途中での開始ができるか等も含めて、引き続き部内でも検討はしていきたいというところにはなりますが、原則は、ここで御議論いただいて令和9年4月の開始かなと思うんですけども、学校の実態とか、教員が携わりたいという声が財団に行っているというお話なんですけれども、教育委員会としてそのあたりもつかめていない部分があるので、そういったものを学校からも聞き取りをしながら進めていきたいところではございます。

以上です。

○委員 大枠のイメージは分かったんですけども、いわゆる学校部活動ではなく地域クラブ活動になるということのお話だったので、そういう意味では、この地域クラブ活動イメージの用賀中学校と弓道合同練習会というのは、何となく用賀中学校のほうは基本中学生主体で、まだ外部の方が入っていないくて、指導者自体をいわゆる外の方がやっている、つまり部活動の延長のようなもので指導者に外の人が入っているというようなイメージに私は捉えていて、先ほどの説明の中では、地域クラブのほうの活動になるのであれば、中学生のみが活動の主体というかメンバーではなくほかの人も入ってくるというお話もあったと思いますので、そういう意味では、弓道合同練習会だと多分、複数の学校とか1つの学校にとどまらない弓道をやりたい人たちが入ってくるというイメージになるので、弓道合同練習会の今やっているほうがより地域クラブ活動的な感じに私は捉えたんですけども

も、その認識が間違っていないのかどうかを確認させてください。

○事務局 弓道については、今、スポーツ振興財団で大蔵運動場でやっていただいているもので、おっしゃるとおり複数の学校が入っています。用賀中学校については、総合型にお願いをされていて、用賀中学校の方が中心なんですけれども、国という地域展開になったときに、対象の主体が子ども、中学生だけでなく、ほかの小学生なり地域の方も入れるもの、門戸を狭めないことみたいな要件はあるんですよ。そうなったときに、例えば今、強い学校のとある部活動にそういう方が本当に入れるのかみたいな課題とかもあるので、そういったやり方とかは議論していかなきゃいけないのかなと。今はあくまでも中学生が主役で地域展開と言っていますが、国とかで定めている定義というとまたちょっと違う。だとすると、世田谷モデルというのはどういうふうにしていこうかというところを議論していきたいというのはあります。

○委員 分かりました。

○委員 質問なんですけど、令和11年度から地域展開、休日におけるというふうになっていますが、平日の扱いは、これまでどおりの地域連携というのは継続していくのか……。

○事務局 基本的にはそういう考えでおります。すみません、途中で。

○委員 この地域展開のものが平日にも活動することはないということなんですか。

○事務局 そこが、国は原則地域展開にしたいというところがあるんですけども、今の学校部活動、現時点での教育委員会の考え方としては、それを全部地域展開にしましょうというのは、受皿もないですし、それは難しい。だったら、土日は活動はまず教員から、先ほどありましたとおり兼職兼業も使いながら、地域の学校部活動から切り離して、地域の指導者を入れて地域の主体でできないかという議論はしたいというところなので、平日は今までどおり地域連携または学校部活動として、いわゆるパターン1、やりたい教員は携われる。外部の指導者が入るところは入るみたいなもので、ハイブリッドでと先ほどありましたけれども、そういったものでやっていく想定ではあります。

11年度以降を第2段階でどうしていくかというのは、この協議会の中で、9年度、10年度で方針的なものをつくることになっていますので、そこは引き続き議論したいところでございます。ありがとうございます。

○委員 先ほど、ようがコミュニティークラブの活動というか用賀中学校のテニス部の活動が出たのでちょっと一言なんですけれども、結局、今は女子テニス部のコーチをようがコミュニティークラブのテニス部の方がやっているという状況ですよね。それが今後、地

域展開がもう少し進んでくると、その部活動の中にほかの生徒も入ってきたり小学生も入ってくるということの認識でよろしいのでしょうか。

○事務局 そういうことが国が言っている将来的なものに近いんじゃないかと。ただ、世田谷区がそれをやるかどうか、できるのかどうかというところは、学校も含めて議論が必要かなと思っています。

○委員 ようがコミュニティークラブのテニス部があつて、そちらには当然、一般の人も入ってきているので、そっちはそっちでやって、部活動は用賀中学校の生徒だけとか、そういうすみ分けもできるのかなと思ったのですけれども、その辺も可能性はあるということですね。

○事務局 そのやり方については、やはり主体であるお子さんがどう考えるかなので、あくまでも大人の都合でこうなっているからこうというやり方はしたくないんですよ。なので、後ほどの議論にありますけれども、アンケートとかも取りながら、丁寧に進めたいと思っています。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員 2 ページ目の地域クラブ活動を実施で、企業などと記載していると思うんですけれども、これは企業に何を期待して、企業側が何か御提案したらいいのか、申請とか認定のルートがあるんですけれども、この辺は企業側にはどういうことを求めているか、教えていただきたいなと思います。

○事務局 例えば今、企業ではいろいろスポーツクラブとかをやっている中で、そのところで中学生を受け入れていただいた地域クラブ活動的なものができたらいいなというのはありまして、国としてもそのあたりは受皿の一つとして考えているんじゃないかというのもあります。

○委員 それは企業側がその地域クラブを受け入れるということですか。

○事務局 受け入れるというか、地域クラブとして何かを立ち上げていただく可能性はあるのかなのか。

○委員 企業側が地域クラブを立ち上げると。

○事務局 そうです。運営主体になるかという。

○委員 例えば水泳の地域クラブを立ち上げるというようなイメージですね。

○事務局 そうですね。おっしゃるとおりです。

○委員 そこをできれば実施してほしいということですね。

○事務局 そういったことも可能性があるのであれば、当然受皿が多ければ多いほど充実したものになるというのはあるとは思うので、そのあたりですね。

○委員 ありがとうございます。

○委員 今の点でお伺いしたいんですけれども、そうすると、どこかが地域クラブを立ち上げた、それを学校は場所を提供するという形で受け入れるとか、そういうイメージでいいんですか。

○事務局 第1回でも場所についてちょっと触れてはいるんですけれども、学校施設だから必ず貸さなきゃいけないとか、そのあたりは今後の課題かなと思っています。いろんなところの生徒が入ってきたときに、責任の主体はどこになるんだ、その分を学校長が負ってくれみたいな話は教育委員会としてもできないので、様々課題があるので、先行自治体の例とかも踏まえながら、世田谷にはどういったやり方がいいのかというのは議論していきたいなと思っています。今のところ、区でこういうふうにやると決まったものはないので、そこは本当に意見交換をしながら進めたいというのが本音です。

○委員長 よろしいですか。

まだ多くの意見はあるかと思うんですけれども、資料3は引き取らせていただいて、こういうのがうまくスムーズに、いろんな声が聞こえるように、具体的にアンケートをどういうふうに進めて声を拾っていくかをもう少し詳細に御説明いただいて、その上で委員の皆さん方に、こういう項目もちょうと入れてほしい、こういう問題があるからこういうことはどうですかというふうに問題提起をしていただければありがたいなと思っていますので、そのつもりで説明を聞いていただければと思っています。

では、事務局から、資料4についてお願いします。

○事務局 続きまして、資料4、地域連携・地域展開に関するアンケート項目（案）について御説明をいたします。

資料4を御覧ください。1の主旨ですけれども、本年3月改訂の方針のとおり、区では、令和10年度までに地域連携を進めつつ、令和11年度以降、休日を中心とした地域展開を進めていくこととしてございます。その際に検討すべき視点として、資料中央に記載の6つの視点を今回の方針改訂の際に示しております。昨年度、今後の部活動の地域展開等を見据え、学校部活動の在り方について、部活動の指導を教員が担うのか、外部指導者が担うのか等を含めた方向性を把握するためのパターン分け調査を各校に実施いたしました。調査結果では、これまでどおり教員が指導を行うパターン1と外部指導者が指導する

パターン2が最も多い結果となっております。しかしながら、教員には異動があるほか、生徒数の増減や校長の考え方等により状況も変化する可能性がございます。そうした状況も踏まえまして、当事者となる生徒、保護者、教員の意見、いわゆる生の声を幅広く聴取し、その結果を今後の地域展開の検討に活用するため、アンケートを実施いたします。アンケートの内容や各項目の詳細等については後ほど御説明いたします。アンケートはマイクロソフトのフォームズにより無記名で行います。

資料の2ページ目を御覧ください。回答期間ですが、9月11日から9月いっぱいの予定で行う想定でございます。スケジュールについては記載のとおりです。

引き続きアンケートの詳細について御説明いたします。資料4の別添を御覧ください。A3の横判のカラー刷りのものをお配りしてございます。アンケートの案について、質問の内容や意図等を御説明いたしますので、質問の設定の仕方、聞き方、選択肢の数や内容等、お気づきの点について御意見をいただければと思っております。アンケートは①から③まで、生徒用、保護者用、教員用の3種類がございます。資料の左上に対象者の記載がございます。細かい内容はそれぞれ対象者別に異なる部分はございますが、アンケートは大きく4つに区分けした構成としてございます。質問内容の上にセクションと書かれている部分がございます。セクションの1は回答者の基本情報や部活動についての質問、セクションの2では部活動の地域連携に関する内容の質問、セクションの3では部活動の地域展開に関する内容の質問としています。セクション4はその他の項目になります。先ほどのとおり、方針では6つの視点を示しており、質問項目がその6つの視点のどの項目に該当するのか、質問の意図について、右の欄に記載をしております。また、令和5年度にもアンケートを実施しておりまして、そのときと比べ質問項目が今回は増えているなど、完全に同一の内容ではございませんが、引き続き経年で追える質問については、備考の欄を空欄としております。今年度のアンケートで初めて設定した質問は備考欄に新規と記載しているものでございます。

質問内容について幾つか確認をまいります。

初めに、生徒用のアンケートを御覧ください。冒頭で、学年と部活動への所属の有無について確認した後、部活動への参加理由、満足度を確認しております。ここでの回答内容によりまして、選択肢の隣の欄にありますとおり、次の質問番号の項目に遷移する形式としております。例えば質問2で、部活動に所属していない生徒は、次は質問の8に回答いただくことになります。番号に色がついている設問は必須の設問となります。また、部活

動以外の習い事の有無を確認するほか、部活動に所属していない生徒に対し、その理由を問う設問がございます。ここまでの基本の情報になります。質問9からが地域連携に関する質問となります。初めに、地域連携を知っているか、指導者が特定の方に限定されていないことへの考え等を聞いており、生徒視点からの指導者に関する課題の把握や、教員の関与に対する考え等を把握したいと考えております。質問の13からが地域展開に関する質問となります。初めに、同じように地域展開を知っているか、15では、学校部活動に希望する活動がない場合で、地域クラブに活動がある場合、その活動を希望するか等を聞いております。また、地域クラブに期待することや不安なこと、学校との連携に係り学校側に知っておいてほしいことなどを聞いてございます。19、20で活動の頻度や活動場所についての考えを聞いております。その他として、自由意見的な内容となります。

ここまでの生徒用のアンケートとなります。

次に、別添資料2の保護者用アンケートについて概要を御説明いたします。先ほどの生徒用と構成は同様となっておりますが、視点を保護者目線からの質問としております。

3、4では、部活動に期待することや満足度を聞いております。また、6、7では、塾以外の習い事の有無と費用負担について聞いており、ここでは経年での把握が可能な項目となります。次に、セクション2、地域連携についての質問となります。この項目は生徒用と同様の内容となっております。次に、12からが地域展開についての質問となります。ここでは、地域クラブで重視すること、費用負担、16では移動手段について、19では運営に当たっての必要な体制の設問を設けております。

最後に、教員用のアンケートとなります。教員用は生徒、保護者用とは異なりまして、顧問をしているか、また、その競技経験や負担感について最初に聞いております。セクション2については、生徒、保護者用と同様です。セクション3の地域展開に関する内容では、先ほども出ましたが、兼職兼業の考え、また、期待すること、懸念すること、特に学校との連携や内容等を項目として設定しております。そのあたりを伺いまして、今後の制度設計の把握につなげてまいりたいと考えております。

以上が、簡単ではございますが、生徒、保護者、教員用のアンケートの概要となります。

御説明は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。かなり量が多いとは思いますが。お目通しいただきながら、表現の問題、項目の問題、それぞれあるかと思えます。このアンケート自体は8月

21日までにつくらないといけない、約1か月しかないとすれば、ここの会で意見出しをしていただいて、いろんな視点から御意見いただいたほうが精選されていくかなと思ってしますので、いかがでしょうか。

○事務局　ちなみに、補足ですけれども、前回、令和5年度、アンケートを実施しております、そのときの設問数と回答率、分かれば教えていただけますか。設問数は増えているんですよね。

○事務局　設問数は増えています。

まず、回答数になります。生徒約1万1800人を対象に実施したんですけれども、回答が7664件、保護者につきましては、回答数のみとなりますが、2650件、教員764名を対象に実施して、回答がありましたのが372件となっています。設問数なんですが、生徒用につきましては問10までということで10問、保護者用につきましては質問9までになりますので9問、最後、教員対象につきましては16になります。

○事務局　行政がやるこういった無作為のアンケート系は、4割返ってくればかなり回答が多いほうなので、今回の中学校の部活の生徒用はかなりの回答率かなと思っております。今回も、倍にはなっているんですけれども、回答は結構してくれるんじゃないかなと踏んでいるところでございます。

補足は以上です。

○委員長　ありがとうございます。

では、いかがでしょうか。

○委員　回答のやり方で教えてほしいんですけれども、基本的にはその時間にやってくださいということなのか、配って、いつでも回答したやつをちょうだいみたいな状態なのか。本来であれば、何かの時間にちょっとやってとやれば、回答率はほぼ100%に近いという気がしたんですけれども、どういうやり方をやっていらっしゃるのでしょうか。

○事務局　マイクロソフトのフォームズを使う形でアンケートの回答をいただこうと思いますので、中学生はそれぞれタブレットを持っているので、中学生が空いている時間のところで、当然、学校にも周知のお願いはするんですけれども、そういった形でアンケートを取っていけたらと考えております。

○委員　それは先生も同じですか。

○事務局　そうですね。校長会とかで諮ってアンケートのお願いをしていくことになっていきます。

○委員 教員用の３ページの15番の質問で、先生が回答するに当たって、確かにいろいろ網羅している回答、選択肢になっているかなと思いつつも、私が分かっていないので改めて確認の意味も込めてなんですが、bで、地域展開になっていったときに、地域展開の活動自体が高校入試の調査書、いわゆる評定の部分に書けないということになっていくんですか。そもそも国の動きが地域展開していくとなっているわけですがけれども、その地域展開していったときは、調査書にはもうその活動は書けないという方向になっているのか、そうなるかもしれないからこの選択肢を入れているのか、そこは私が分かっていないんですけれども、そこは実際どうなっているのか教えてください。

○事務局 学習指導要領にも、地域展開後も学校部活動ではないんですけれども位置づけられるということであるので、教育活動の一環として国は捉えているんだろうなと思っています。今の地域展開のモデル事業においても、普通の学校部活動の方と差をつけないでくださいと教育委員会は各校には言っているので、成績表等、内申等については変化がないものと捉えていますが、設問の意図的にはどうですか。それを加味した聞き方になっている……。

○委員 先生方は認識……。

○委員 今の件なんですけれども、部活動でなくても、何か賞をもらったとか、そういったものについては調査書のほうには、子どもたちにどういうふうに書いてもらいたいかの申請をこちらは大体求めているので、生徒がこれでこういう賞を取りましたということを書いてくれば、基本的には記載します。

○副委員長 クラブチームなんかも書くということですね。

○委員 クラブチームで全国大会へ行った、優勝したとかいう内容についても、保護者や生徒が望んでくればそれは基本的には記載しているので、こっちは把握しようとする試みはしています。言ってこなければ当然書かないですけども、３年生の調査書を書く前には、記載してほしいことを書いてくださいということを面談で基本的には依頼をするので、その辺は大丈夫ですね。

○委員 では、そのときに、このbの意図は、生徒に面談で、自分が何の大会で、その大会のレベルはどうであれ、何らかの促しを先生がされるということで、とにかく、こういう活動で３回戦へ行きましたとか、３回戦が書ける内容かは分かりませんが、いずれにしても、出場したとか、そういう別の表現になって、功績として先生方が書くということであれば、この「記載できない恐れ」というのはあまりないのかなという気も今の話

を聞くと思うんですけれども、事務局としてはこの選択肢はやっぱり残したほうがいいと。

○委員 全学校29校、そこは同じなんですかね。同じ対応をされているのか分からないんですけれども。

○委員 もしかしたら、入試に影響があるみたいな文言にしておけばいいのかなとちょっと思いました。私立で、部活動に3年間継続して取り組んだら内申点プラス1みたいな学校が、大分減ってきましたけれども、あるとすると、成績を調査書に書く書かないというよりも、学校部活動をやっているかやっていないかみたいなことが進路に関わってくるんじゃないかと心配する先生はいると思います。ただ、それは、世田谷ルールとして、今おっしゃっていただいたように、校長が決めるというよりも、世田谷区の部活は地域クラブであっても3年間続ければ部活動として取り扱いますみたいなラインが示されれば大変助かりますし、問題はないのかなと。だけれども、その問題はないという周知は多分それが始まってからになるので、今の段階の心配を集約する文言としてはありなのかなと思います。ただ、成績を把握できるかできないかみたいなふうに限定してしまうと、そこまでは具体的には逆に想像しないんじゃないかなとは思いますが。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。では、少し文言を修正ですかね。

○委員 私は最初、資料4のアンケート項目についての6つの視点の(1)の持続可能な運営体制の整備というのはやはり絶対に大事なんだろうなと。教員も6年で必ず異動しなければいけない、6年いる方がどんどん少なくなってくるということを考えると、持続可能性というのがすごく難しいなというのは我々の考え方なんです。

先ほど資料3で地域クラブが中学生に限ったものではないというような話があって、これだけのアンケートだと、中学生は我々の部活動が地域クラブに変わる、ほかの人は中学生が対象なんだろうなというような認識で多分このアンケートに答えると思うんですけれども、実際に蓋を開いたら、いろんな、小学生がいたりみたいなことがあると、地域クラブというのはこういうものだという説明がこのアンケートには必要になってくるかなというのを感じました。

○委員 関連してよろしいでしょうか。先ほど事務局から、国が言う地域クラブの要件の中に中学生に限らないというお話があって、私は基礎資料2を確認したんですけれども、ここには「中学校等の生徒を主な対象とするが、小学生や高校生、大人等と一緒に活動す

る多世代の取組を排除するものではない。以下同じ。」と書いてあって、先ほど事務局がおっしゃったように、もしここに世田谷ルールというのを設定していいのであれば、中学生に限ることについてどうかというのをこのアンケートで問うのも一つあるかなと思いました。

というのは、この6つの視点の④の意味なんですけれども、もし前回でこの議論があったら申し訳ないんですが、このアンケート上は、地域クラブというものがあって、その中身というか、指導者の充実とか指導者の質とか、そういうことを問うているんですけれども、そもそもどういう形の部活動であれば、令和6年に改正された学習指導要領に書かれている教育的機能を持つ地域クラブみたいなものを満たせるかというところがこの④なんじゃないかなと思うんですよね。どういう構成員なのか、大人も小学生もみんな一緒にやるものの意義を運営主体だとか指導者が持っているのか、それとも中学生だけでやっていくのかというので大きく変わってくるような気がしていて、そこをアンケートで、いろんな人がいたほうがいいですかとか、いろんな人がいるのは嫌ですかというのは聞いたほうがいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。そこは、項目に追加できますか。

○事務局 こちらとしてもそういった視点はあまりなかったもので、より生徒に近い視点で御発言いただいていると思うので、取り入れられるものはどんどん取り入れたいなとは思っております。

○委員 教えてほしいんですけれども、学校として部活によって、全国大会を目指している生徒と、ゆる部活でいいよという人たちの視点で全然回答が変わってきて、そのあたりもちちゃんと分けられた中での意見を取らないと、狙っている人たちはそんな人たちは要らないという回答が当然出てくると思うし、楽しくできるんだったらどんな人が入っていてもいいよと。その分けもちちゃんとしていないと、結果にちょっと違いが出てくるのかなという気はしますね。その辺ももし加えられるんだったら加えてほしいですね。

○委員長 競技的に行くのか、ゆる部活で行くのかみたいところは入れますか。自身が目指すものをどこに照準を合わせるかじゃないけれども。

○委員 学校によっても違うんですよね。そもそもの部活の取組方、先生方の思いだったりとか、その辺で変わったりしているんですか。その辺を分かれば教えていただきたいですね。

○委員 質問項目に入れるとしたら、生徒の部活動に入る目的、大会の上位進出を目的として部活をやろうとしているのか、体力の向上とか、交友関係を広げるためとか、そういった質問項目を1つ入れて、その項目ごとによる分析とかをすれば、何を求めているのかというのはある程度分かるのかなと思います。

○事務局 一応、生徒用の3番の基礎情報のところに、仲間と楽しくやりたいとか、大会やコンクールでって。最初のときにもうちょい過激なことが入っていましたっけ。

○事務局 プロ選手を目指していますかみたいな質問項目が議論としてはあって。

○事務局 ちょっと表現はマイルドに、これぐらいに変えたんですけども、このあたりで拾えるか拾えないか、もう少しこういった言葉のほうがいいんじゃないかみたいなものがあれば。

○委員 さっき教員のアンケートが764が対象とおっしゃいましたっけ。

○事務局 そうですね。前は全教員数764……。

○委員 764に対して372。

○事務局 48.7%の回答率という回答結果になっています。

○委員 4割返ってくればいいよという事務局の話があって、ただ、これはもともと先生方の働き方改革も含めて、主役の先生方の回答が5割に満たない中で進めて、要は半分の意見を聞かずに進めていっちゃうというのが企業人としてはあり得ないというか、今それこそデータベースもいっぱいあるので、瞬時に回答しようと思えばできる環境の中で、逆に、まずそもそも何で半分返ってこなかったのという議論はなかったんでしょうか。

○委員長 もしかしたら、このアンケート自体が働き方改革になっていないという拒否反応なのかもしれない。

○委員 先生方が。

○事務局 否めないです。おっしゃるとおり。

○委員 アンケートは世田谷オリジナルですか。

○事務局 長 これはそうです。

○委員 23区、全部違うわけですね。

○事務局 23区でやっているかどうかも含めて分からないです。

○委員 他区の情報は分からない状態。

○事務局 分からないです。前回はフォームズ。やり方は変わっていないんですね。

○事務局 前回はフォームズで、前身の検討委員会の中で議論して、実際に学校のほうに

聞く……。

○委員 でも、先生方はいろんな区に異動されるわけですね。

○事務局 ほかの自治体がこういう形でアンケートを取っているかは、いわゆる協議会とか検討委員会と同じように、こういったところで議論がされているかどうかで、アンケートを取ろうとなっているかは自治体によってばらばらになるので、別段、こういった議論をした中でアンケートを取りなさいというふうには上からも言われているわけではないので、たまたま世田谷区としては現場の意見を聞こうということで、前回と今回はアンケートを取ろうという形になっています。

○委員 今の回収率も含めて、そもそも論になって申し訳ないのですが、このアンケートを取った後に、ある程度集計というか解析をなさいますよね。僕も、関係者評価委員会の委員をやっていたので、アンケートの限界も分かっています。経年の変化を理解する効果は分かるのですが、これは、ほとんどが新規ですね。それに対してどういうふうな判断をされるのですか。こっちが多いとかこっちが少ないという判断のためのアンケートになるのですか。だから、この使い方というか、それをどういうふうにするかということをもまず考えないと、やっても意味ないような、ただ意見を聞きました、アンケートを取りました、いいですねという話になっちゃう気がして、せっかくだったら、それをどうやって使ってということまでちゃんと考えないと、あまり意味がないと思います。

○事務局 今の段階では、ただ取って終わりにしようというのはなくて、まだこういった回答が来るかは分からないんですけれども、経年の分析をするために取るのであれば同じものでもいいんですけれども、そうではなくて、今の国とか都が方針を出してこういう流れになっていくのに対してどう思っているのか、率直なところをまずは知りたいという思いでやろうというのがあるので。

○委員 単純に生データが出てくるみたいな感じのもので、それを統計の解析をかけてどうのこうのと、複雑なことをしない方が良いと思います。

○事務局 というところまでは考えてはいないですね。

○副委員長 前回、私もいましたので思い出してみたのですが、前回の調査は中学生に、部活動が変わる、地域の皆さんが学校に来て指導するってどう思うとか、何分ぐらい離れたところなら練習場所へ行ってもいいと思うとか、あとは保護者の方にも費用負担はどれぐらいならいいとか、本当にそれこそ素データを取ったという感じだったと思うんですね。

その後、都も国も様々検討を重ねてきて、本区も検討が進んでパターン分けの議論が進んできたということで、改めて子どもたちに、部活動改革って世でも聞くようになったけれども、みんなならこういう場面になったらどう思うか、保護者の方にも先生方にも改めて問うという意味では、今のワードについてダイレクトに聞いてみるというのは僕はあっていいかなと思うし、むしろこれを継続していけるようにすると、地域展開への子どもたちの認識も変わってきたとか、保護者の理解も高まってきたとか情報が得られますので、そんなふうに使っていけばいいのかなとは思っています。なので、委員がおっしゃるように、今度は先生方も、100%かどうかは分かりませんが、たくさんの御回答をいただいて、子どもたちも保護者の皆さんもですけれども、というふうに我々協議会から発信するというのが僕らの責務でもあるのかなと思って今伺っておりました。

私も幾つかいいですか。

○委員長 どうぞ。

○副委員長 先ほどありました子どもたちが何を目標しているかというニーズのところですね。例えば生徒用の、先ほどのセクション1の第3項目、事務局からお話しいただいて、コンクール等々ありましたけれども、同じようにセクション3の16番目、ここでも地域クラブ活動に何を求めるかということで、大会やコンクールに参加したいとか、楽しく活動できるかというのは、これらは対になっていて、学校ならどうというのが3番目で、地域クラブには何を求めますか、これは両方とも要素が入っていると思うので文言を少し調整して、先ほどの高みを目指すというような表現にするか、あるいはこのままで行くか、そのあたりを見ていけば、先ほどの御指摘については今のところ対応可能かなとは思っています。

もう1個思ったのは、15番目ですけれども、今のところの地域クラブ活動のイメージは、総合型のクラブに入るとか、あとは財団の活動に入るとかという話で捉えていますよという説明がありましたけれども、そう思うと、15番は単一の回答で地域クラブに参加したいかどうかと聞いているんですが、既に参加しているという子もいるんじゃないかなと思いました。ですので既にしている子の枠も必要かと思いました。

子どもの回答については、学校名とか今入っている部活の名称は聞かなくてもいいものなんでしょうか。というのは、要は全校の子たちに満足してほしいというのが我々の願いだと思いますので、そういう意味では、この地域はちょっとまだ受皿が少ないかもしれないとか、ここの地域は様々子どもたちは満足してきているとか、そういう情報を得ても

いいのかなと考えます。個人情報に類するのかどうかは御判断があるかと思いますが、そういうのもあっていいかなという気はしました。

先ほどの先生方の成績調査書の件がありましたが、我々も大学で推薦入試とかをやりますけれども、「大会等での成績が把握できず、高校入試の調査書等」とありますが、いろんな大会が今あるので、この大会がどのレベルを反映するものかが分かりづらいというのがあります。例えば〇〇大会で優勝しましたという記載があったとしても、それが4校しか出ていないとかいう場合に、どう判断していいのか迷うこともあり得ます。どのレベルか分からないので、その辺では把握しづらいというこの記載は、そういう意味では僕は分かるなと思いました。でも、出されてきたらやっぱり調査書としては書かれるということなので、その手続、判断についてはまた別の話かもしれませんが、「成績が把握できず」の内容については、大会のレベルが多様化しているというのは私はあるかなというふうに受け止めました。

すみません、たくさん言いましたが、取り急ぎ以上です。

○委員 言葉の意義が何も説明がないので、地域クラブって何とか、そういう説明はちょっと欲しいかなと。兼職兼業の話もちょうと入れてほしいなと。書いてはあるんですけども、もうちょっと具体的に、例えば、費用はこういう形だよ、こういう場合にはやりたいですか、やりたくないですか。単純にやりたいですか、やりたくないですかという聞き方じゃなくて、条件がちゃんと出た中で具体性がある中での回答を求めたほうが変わるかなという気がしています。

あと、今、モデルが9校あるんですけども、モデルをやっているところとやっていないところでまたニュアンスが変わってきちゃうのかなという意味では、先ほどの学校が分かるとかは必要になるかなとちょっと思いました。

○委員長 事務局、今のは大丈夫ですか。

○事務局 学校については、選択式にして、最近、性別だと「答えない」というのがよくあるじゃないですか。その「答えない」とかも入れてよければ、そんなに問題にはならないのかなと思ったりはしました。

○副委員長 無記名でいいんですけども、エリアは分かってもいいかなとか。

○事務局 ちょっと考えます。

○委員 記載の方法だと思うんですけども、生徒用の7番「どのような習い事をしていきますか。」のところで、文化系はプログラミング教室、ピアノ教室、教室と教室なんです

けれども、運動系はテニススクール、ダンスクラブというところで、文言は統一したほうがいいのか、前からもこういう文言があるのであれば、検討はいいのかなと思うんですけども、大体はスポーツクラブとかだったらダンス教室かダンススクールで結構統一しているかなと思うので、そのほうが生徒さんは分かりやすいのかなというのは感じておりますので、御検討ください。

あともう1点は、せっかくアンケートを取るの、先ほどの先生の回収率は、アンケートを取るの、何%を目指すとかが出てくると、それもしっかりとアンケートでこう生かすよというのがあれば、ちゃんとしたアンケートの枚数、個数が取れるんじゃないかなと思いますので、目標率が出てくるといいかなと思いました。

以上です。

○委員 生徒用のアンケートで、2番目の項目で「所属していない」と答えると8番のほうに遷移するというお話があったと思うんですけども、そうすると、所属していない子は習い事とかの質問には答えないということになるんですかね。

○事務局 これでいうと、そうなりますね。

○委員 それは答えてもいいんじゃないかなと思ったんですけども、何か答えさせない理由とかがあるのであればあれですが。

○事務局 ここは明確な理由が今ないので、今いただいた御意見を反映させていければと思います。

○委員 分かりました。

あと、ついでに、教員のアンケートの回収率を上げるというお話があったかと思うんですが、時間を取って答えてもらうというふうにすれば上がるかなと思うんですけども、教員としては、やっぱりアンケートに答えるのは負担であるということと、答えてそれが反映されるのかということにちょっと疑問を持っているところもあるんじゃないかと思うんです。ですので、これは反映されますよと言ったら結構みんな答えてくれるんじゃないかなと思います。

あともう一つは、フォームズの特性として、誰が答えているかが分からない。昔のように紙で渡せば全員出しましたねというふうに把握できるんですけども、そういう意味では投げるしかないなので、4割、半分近く行っているというのは答えているほうかなと思うぐらいですけども、もうちょっと誰がというのまでやれば8割は余裕で超えるとは思いますが。

○委員 アンケート後の結果について気になっているのですけれども、例えば今の教員のアンケートの3番の「部活動指導・運営について負担感がありますか。」に対して、大きな負担を感じるという回答が多いということをこっちはやっぱり期待しているわけですよ。ところが、例えば「d」が多くて負担を感じないとなったときはどういう判断をするのですか。教員はそう言っているけれども、国の政策だからという言い方になるということですか。世田谷区の先生たちはみんな負担を感じずにやっている、仮定の話で申し訳ないのですけれども、そういうことが一々1個1個悩みの種になるかなという気がします。

○事務局 出てきたもので、大きく負担を感じないからこのままでいいかというわけにはいかないのです、傾向を見たいというのがあります。負担を感じない、そうなんだというだけでは終わらせてはいけないと思うので、副委員長がおっしゃるように、どこのエリアのとか、学校名が分かれば一番いいんですけれども、ここの学校の人はこちら答えていたんだというのが分かればありがたいはありがたいなと思います。

○委員 負担感を感じないとしても、もうちょっと授業準備に時間をかけてほしいなというのがありますので、部活動改革は負担感だけの課題じゃないだろうなというのが一つあります。

私も学校名と生徒の部活名、もしかしたら教員の部活名も取ったほうがいいだろうなと思っています。そうすると、クロス集計して、ゆる部活がどれかというのは部活名を見ればお分かりだと思うので、ちょっと意識の差が見えてくるんじゃないか。単年のアンケートでもちょっと傾向が見えてくるし、地域とかモデル校とのクロス集計で違いが出てくるんじゃないか、今のモデル校の成果みたいなものも出てくるんじゃないかなと考えています。

それから、最近、違う課から子ども向けに子どもの権利条約とかに関するアンケートを複数やりまして、それは、このアンケートに協力しますか、しませんかというのが1問目なんです。これをどうやらせるかは先生たちの腕の見せどころだよという話は私はしたんですけれども、こういうアンケートに答えて意見を表明するということは大事なことから、やらなくてもいいよというふうには言わない。だけれども、やりたくないという意見表明もできるということを子どもにどう教えていくかということに先生たちはチャレンジしている、そういう時代だと思っているんです。これももしかしたらそういうふうにしていただいて、私たちは管理職として全員にお願いしますと言って時間を取る。でも、答えたくないという主義主張の方は、強制はできないので、答えないというチェックをして

終了という手もあるかなという気はしました。

○事務局 その勇気が教育委員会側で持てるかどうかを試されているところですかね。

○委員 そうですね。

○委員 アンケートでやっぱり一番大事な、出てきたものをどう客観的にアウトプットしてフィードバックするかというところがすごく大変なところなので、項目が増えるほどやっぱりそれが。ただ、ある程度誘導、ちょっとこれは表現が難しいんですけども、こうあってほしいなという理想像に対しての問いかけがきっちりないと、あまり広がっちゃうと、富士山に登りたいという目標なのに全然違う項目がいっぱい出ていたら、それはぼけちゃうので、委員のおっしゃるように、必要なアンケートだから答えてほしいというものが見えてこない。

数が多いと集計もすごく大変なのは分かりますし、でも精度は上げたいですし、でも先生方はいろんな区市町村に転勤なのに、また戻っちゃいますけれども、世田谷だけで、東京都モデルまで示しておいて東京都は何もやらないのという。東京都がひな形があって、ある程度それこそアレンジするならあれですけども、比較もできないじゃないですか。先生方はいずれ異動しちゃうみたい。すごく素朴な疑問です。

○委員長 こうしたアンケートを取るときに、特に学校名が分かり、ネガティブな回答をすると他から何か言われるんじゃないかなとか。特に教育委員会がするアンケートですが、不利益はありませんよと言ってあげるとのことと、あわせて、これが世田谷区の未来に関わってくるから協力してくださいというのを程度分かりやすい言葉で書いておくべきかと思います。また、生徒アンケートに関しては中1にも答えさせるので、中1でも理解できるように、してもらえるとありがたいなという気はちょっとしていました。

○委員 今のところなんですけれども、11年度からが本格実施じゃないですか。今の子はもういないんですよ。だから、もっと当事者の小学校高学年の子たちとかにも意見を聞いたほうがいいかなという気はします。

○委員長 事務局、どうですか。

○事務局 おっしゃるとおりの部分はありますが、ちょっと考えさせてください。

○委員 それを考えるなら、保護者というのはすごく大事なかなと思っていて、多分、保護者が結構いろいろ決めているところがあったりするので、そこをもう少し、同じような質問とかを入れたりするといいのかなと思ったりしました。

○委員 前回のアンケートのときは、先生とか生徒とかにちゃんと返しているんですか。

どういう結果だったよって。

○副委員長 ホームページで公表しているんですか。

○委員 それは関心がないと見に行かないですよ。ちゃんと返してあげないと、認識も変わらないし、全体はこうなんだという動きも見えないんじゃないかという気はちょっとします。

○委員長 では、まだ御意見はたくさんあるかと思うんですけれども、8月21日までにこれを固めないといけないと思いますので、今後もしさらに御意見がありましたら事務局のほうにメールでよろしいですか。

○事務局 はい。

○委員長 活用方法についても、ここら辺をこういうふう to 活用してほしいとか、御意見がありましたら御意見いただいて、それが反映されるように事務局のほうで調整いただければと思っています。

一旦これは引き取らせていただいて、もう一つの話題があるので、時間的にも次に行きたいと思います。では、大会における部活動支援員の引率と大会参加費の支給について、よろしくをお願いします。

○事務局 それでは、資料5、大会における部活動支援員の引率と大会参加経費の支給について御説明をいたします。本資料は、部活動支援員による大会の引率範囲や参加費の支給範囲等をまとめたものでございます。

初めに、1の検討の背景ですが、令和7年に国が示したガイドラインでは、大会等の引率は教員以外の指導者でも担える体制の整備が示されました。また、全日本中体連が主催する全国大会でも、校長が適切と判断した場合には外部指導者が引率や監督を担うことを認めることとしています。しかし、区の現行制度では、部活動支援員が引率できる範囲は区内の大会や都大会などに限っており、関東大会や全国大会に進出した場合の扱いは規定していないことから、今後の地域展開等を踏まえ、取扱いについて検討する必要があります。

一方で、中体連の細則では、校長、教員、部活動指導員が引率できない場合に限り外部指導者の引率を認めるとされており、安易に外部指導者へ引率を任せることはできないという制約もございます。

こうした状況を踏まえ、生徒の安全管理、教員の負担軽減といった点から、大会引率の在り方を整理し、必要な経費支給の範囲を検討いたします。また、今後の地域クラブ活動

の展開により、これまで学校部活動にはなかった種目等が行われる可能性があり、大会の形態や参加の仕方も変化していくことが予想されるため、引率だけでなく、大会参加への支援の在り方も整理してまいります。

次に、2の部活動支援員の大会引率についてです。まずは現行制度についてですが、部活動支援員の大会への同行は、現在、区の要綱に定められており、引率できる範囲としては都大会までとしております。交通費等は記載のとおりでございます。

(2)部活動支援員の引率範囲についてです。関東大会等の上位大会では、移動距離や宿泊を伴うなど、都大会と比べて安全管理や緊急時の対応など負担が大きくなります。中体連の細則では、積極的に部活動支援員のみで全国大会等の引率を担うことを想定しているわけではないほか、教員に加えて支援員が引率補助として関わることによって、複数の大人による見守りで安全管理体制を強化することが可能となります。大人が増えることで、移動時や会場での対応、宿泊時等の対応が分担でき、教員に集中している大会引率負担の軽減も図れると考えています。

このため、大会側の規定や安全管理の双方から効果や課題を勘案し、教員引率を条件として、部活動支援員の交通費及び引率補助に係る謝礼等を支給対象に拡大する方向で検討したいと考えております。資料ではそれぞれの効果や課題を整理しております。

次に、(3)引率に係る経費の支給対象範囲についてです。現行の学習指導要領では、部活動は学校教育の一環として教育課程との関連を図ることとしているため、経費の支給範囲もその意義を踏まえた団体の主催である全国大会までを対象にすることが望ましいと考えております。

次に、4の地域展開における大会参加費のあり方についてです。今後、部活動地域展開が進み、地域クラブが運営を実施する想定とした際、これまでの学校部活動にはない種目等の実施も特徴の一つであり、活動内容によっては全国にとどまらず世界規模での大会が開催されることが想定されます。実際に区立中学校でも世界大会への参加実績がございます。こうしたことから、部活動の教育的意義を継承しつつも、幅広い活動の実施が想定される地域クラブでは、部活動の考え方を基本としつつ、世界大会における大会参加費の考え方についても、支給の効果や課題を踏まえ、検討を行っていく必要がございます。

まず、参加費を公費負担する効果です。方針の6つの視点を踏まえた生徒の希望等の支援ができること、家庭の経済的負担による不参加を防ぎ、生徒の挑戦する機会を確保できる点等がございます。

一方、支給の課題ですが、主催団体や大会が多様となり、対象とする大会や参加者の主体をどこまでとするか、大会の教育的意義の判断など、基準づくりが難しい点がございます。また、海外渡航となった際に全額を公費負担とすべきかについて、区の他事例も踏まえた検討が必要となります。

資料では、参考としまして、他の事業の基準額や海外派遣にかかる目安の額をお示ししています。区で実施する海外派遣を含め、一定額の自己負担が発生している状況です。

これらを踏まえた方向性ですが、世界大会は学習指導要領の教育的意義を踏まえた団体による大会ではないため、本来は支給の対象外と整理すべきであると考えております。一方で、部活動にはない種目での大会の在り方、生徒一人一人の希望や状況に応じた活動に対する支援の点では、世界大会においても費用の支給が望ましいと考えられます。ただし、支給すべき大会の判断基準の不透明さや公費負担の影響等を考慮する必要がございます。そのため、日本における全国大会などの成績を基に出場が決定する大会であることと、支給額に上限額を設けることを条件に、支給対象とすることといたします。

いろいろ述べてきましたが、最後に、5のまとめとして整理の方向性ですが、まず、関東大会や全国大会での支援員の引率についてです。全国大会における支援員の引率は、複数の大人が見守ることのできる体制により生徒の安全管理体制を強化できる点や、移動時、宿泊時等の対応を分担することで教員の引率負担の軽減につながる利点がございます。また、大会側の規定により、安易に支援員に引率を任せることは適切ではないとしている点を踏まえ、教員による引率を前提に、支援員が引率補助として関わる際の交通費等を支給対象とする方向で拡充したいと考えております。なお、どこまでを支給の対象とするかにつきましては、中学校の部活動は学習指導要領を踏まえた活動であるため、大会参加に関しても、そうした意義を踏まえた団体が主催する全国大会までといたします。

(2)部活動地域展開における地域クラブについてです。地域クラブにおいては、学校部活動の教育的意義を継承しつつ、幅広い活動の実施が想定されます。そのため、部活動の大会参加費の考え方を基本に、世界大会の大会参加費の考え方についても整理を行ってまいります。その上で、日本における全国大会などの成績を基に出場が決定する大会であること、世界大会における支給額には上限額を設けることを条件に、支給対象にしたいと考えております。

本資料についての御説明は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。今御説明いただきました点について、御意見、御質問

いただきたいと思います。時間は残り20分弱となりますので、コンパクトに御質問、御意見いただければと思っております。いかがでしょうか。

○委員 最後のまとめの部活動地域展開における地域クラブ、こちらの支給の考え方はこういうことなのかなというイメージは持ったんですが、引率の先生はどういう扱いになるんでしょうか。

○事務局 それは、地域展開に学校の教員が入っていたらということですか。

○委員 そうです。さっき、2ページ目とかでいわゆる教員の引率の話があったかと思うんですけども、地域展開があってもこの考え方が踏襲されるのか。今、部活動を前提で議論というか資料を作られているんだとすれば、地域展開後は教員の引率はどのように考えていくのかというのを確認しておきたいです。

○事務局 基本的には、学校部活動から切り離されたときは、もう学校部活動ではないので、教員の引率という考えはないかと思っています。地域クラブの方が責任を持って行っていただく。そこに教員が兼職兼業で入っていたとすると、公費ではなくその地域クラブの活動費の中から出るのかなと思うんですが、その地域クラブの活動費に公費が入らないのかというと、そういうことでは成り立たないと思うので、そこは議論が別になりますが、委託はないと思うので、補助金等で支出した中から出してもらうのかなと思っています。海外については、生徒については自己負担はある程度発生するのかなという整理で今考えているところです。

○委員 となると、やはり部活動として残る可能性の部活もあるという理解でいいですか。

○事務局 令和11年度までに整理をしていく中での議論になると思うんですけども、取りあえず令和11年度以降も学校部活動は残る、土日休日の活動が地域展開という形になるので、当面は学校部活動のままいくという認識で今はおります。

○委員 分かりました。以上です。

○副委員長 私も言葉の確認をお願いします。世界大会の参加費という言葉の範囲、これは経費と参加費は違うという認識でしょうか。交通・宿泊費、日当を参加費と呼ぶのか。参加費と言われると、僕は出場登録料のイメージで最初読んでいたんですね。でも、これは経費も……。

○事務局 ここでは大会参加にかかる費用という意味合いで記載させていただいてまして、この部活動地域展開における地域クラブというのも、ゆくゆくは自治体ごとに定める

認定基準に基づいて認定クラブとしての活動になる。そういった団体、クラブに対して一定額の大会参加にかかる費用に使ってくださいということで参加費を支給していく、そのようなイメージであります。

○副委員長 では、まるっと。それで上限を設けるということですね。分かりました。ありがとうございます。

○委員 資料で誤解を招くかなと思うんですが、2番の部活動支援員の大会引率についての交通費と謝礼ですけれども、これは手当として、単独引率に3500円で、これ以外に時給が発生することはないのでしょうか。これでは引率しないと思っちゃうんですけれども、時給は必ずつきますよね。

○事務局 時給という表現は区は使えないんですけれども、時間……。

○委員 時間単価当たり幾らというのは必ず支払われるということでもいいんですよね。

○事務局 それに相当する謝礼額は支払います。

○委員 質問で、あまり理解が追いついていなくて申し訳ないんですけれども、地域展開をしたときに土日の活動は地域クラブになるというお話だったと思うんですけれども、大会参加はどういうふうに参加するんですか。

○事務局 大会参加は、大会によっていろいろあるようなんですけれども、中学校の活動で出るのか、地域クラブとして出るのか。合っていますか。

○事務局 全中の大会要項とかでは、学校の部活動として出るのか、地域クラブとして出るのか、はたまた、地域展開でやろうとしている認定地域クラブで出るのかというところでエントリーするような形になっているので、それぞれ形態によって違ってきます。

○委員 例えばなんなんですけれども、野球部を例として、平日は部活動として野球をやっている。その活動がそのまま土日は地域クラブとしてやっているという状況が生まれるのではないかなと考えているんですけれども、大会にどちらでも出られるとなったら、その団体がどちらで出るかを選択するということですか。学校として部活動として出るのか、地域クラブとして出るのか。それによって、部活動として出た場合は教員の引率が必須になる、けれども、地域クラブとして出た場合はそうではない。かつ、そこに教員が入っていったら、そっちで出れば謝礼も出るというよく分からない状況が出てしまうんじゃないかなという気がするんですけれども。

○事務局 今の想定だとということですよ。

○事務局 おっしゃるとおりで……。

○委員　そういうことになるんですか。

○事務局　もともと国が位置づけた休日の地域移行から始まったときから、これは多分皆さんが疑問に思うことだと思うんですけども、特段そこについて触れられず、地域クラブとしても出られますよと、中体連の要項とかも拡大されている状況で、実際にどっちで出るのかというのも統計を我々は取っているわけではないので、取っていかないといけないと思うんですが、おっしゃるとおり、平日は部活動でやっていて休日は展開でやっている自治体は絶対あるはずなので、そこは我々としても、どういうふうに大会に出ているのかは今後聞いていって、この中とかで情報として共有できればと。現状どっちが正しいのかというところまでは、すみません、我々も答えを持っているわけではないので、他自治体の例とかも踏まえながら、ここでまた議論させていただければと思います。

○委員　陸上の関係ですと、小学生はクラブチームから出る子がすごく多いんですよ。ただ、中学校とか大会になっちゃうと学校で出てくるケースが多くて、どこが主催しているかによっても違いますけれども、やっぱり中学校として出たほうがそのメリットはあるというところに出てくるケースが多いのかなとちょっと感じています。

○事務局　個人スポーツだとどっちか選んでねというのは分かるんですけども、チームスポーツになると、もしかしたら生徒の希望によって、部活として出たいのか、チームとして出たいのかで一人一人の主張も変わってきたりとかもするので、少し難しい点かなと思うんですが、そこら辺も他自治体の事例を踏まえながら、また情報は共有させていただいて、議論できればなと思います。

○委員　今も疑問だったんですけども、例えば中学校とかで全国大会とかに出ていて、中学校の名前で出ていたら学校が負担してくれたりするんですか。例えばチームで、高校とかだったら甲子園とかに行ったりするじゃないですか。そうしたら学校が負担してくれるみたいな。それがクラブチームで出た場合は区の補助金でしか出ないという形になると、どっちで出たほうが得になるのかみたいなこととかはないんですか。

○委員　学校というか教育委員会のほうで旅費とかは出してくれる形になっております。

○委員　そうなるとうやっぱり、登録するときに、どっちのほうが有利というか、そういうこととかを考えちゃったりしますよね。

○事務局　費用負担も含めて、まだまだ議論を重ねないと、多分、今、委員がおっしゃったようなこととか、いろいろ出てくると思うんですよ。なので、その未知のものを一つ一つ整理しながら、特に委員におっしゃっていただいたような費用負担の問題は非常に大き

いと思っていて、うちも本当に補助でとかと簡単に言っていますけれども、何の裏づけもなく発言していますので、そのあたりも整理が要るかと思います。学校が出る分には、おっしゃっていただいたように教育委員会が大会参加費ということで支給はしていますが、その範囲がかなり限定されている部分があるので、そこをちょっと広げようというのがこの話になっております。

○副委員長 本当にいろんな想定がされますね。例えば、平日は15人いるんだけれども、休日になるといろいろあるから13人しか地域クラブは入らなくて、どっちで大会に出るとか、きっとそういうのも判断基準になりますよね。このメンバーでというふうな、どっちに行くのかとか、ありますしね。

僕は基本線としては御提案に賛成なんですけれども、賞金が出る大会というのは想定されますか。今、いろんなものがあるなと思って。例えば、世界大会で補助をもらうんですけれども、賞金でそれ以上もらって帰ってきたとか。eスポーツとかがすごいとか言うじゃないですか。子どもの大会で賞金とかはないのかもしれませんが、もしかしたらそんなことも。様々出てくるかもしれないなと思いました。

○事務局 これを考えているときはそういう想定はしていなかったんですけれども、課題感としては当然持っておくべきものでありますし、あと、基本的にはやはり教育的意義があるのかどうかというところで判断が一つあるかと思うので、賞金目当てで出るというのが金銭感覚を養うという意味では教育的意義がゼロではないのかもしれませんが、ちょっとどうなのかなというのはあります。

○副委員長 そうですね。学校で出る分には、賞金とかがない、全国大会の成績を基に世界に行きましょう、それは想定しやすいと思うんですけれども、主催団体が様々になればなるほどいろんな副賞みたいなものも出されることも考えられますね。

○委員 この話題とはちょっと別なのですけれども、この委員になってから僕はずっと悩んでいるというか考えていることがあって、部活って何だろうということなのです。例えばここに出ているようないろんな、文化、科学、ロボット、プログラミング、eスポーツとか出てきて、スポーツ系の競技があって、その大会みたいなイメージなのだけれども、いや、ひょっとしたら、学習塾にみんな行っているけれども、学習塾は部活と言わないのかとか、そこまで考えちゃうと、じゃ、民間企業がやっている受験勉強指導に、教育的に意義があるとしたら、あれは部活じゃないのかという。部活とは何だろうみたいな話で、ちょっと最近悩んでいるのです。これからいろんなスポーツ、まさにeスポーツなん

て、あんなゲームなんかやってしょうがないなと感じることもあるのですが、こんなに大会が世界的に盛り上がって、希望する生徒が多ければ、あれもやっぱり部活になるのもものね。すみません、余計な話かもしれない。

○事務局 地域展開したときに何を認めるかは、認定制度のようなものが一つあるのかなと思っていて、その認定の要件は何だというのは今、自治体でみたいな話になっていますけれども、ある程度こんなものというのは国で出てくるんじゃないかなという気はしています。

○委員 質問が2点あるんですけれども、今の地域展開のいろんな項目がという点では、この間ニュースでも出ていた数学オリンピックとか化学オリンピックとか、そういう世界大会も入るのかなというのが気になった点と、もう1点は、地域展開して、地域クラブのほうでこういった上位大会に進出した旅費関係のこととか事務手続というのは、今後地域クラブでやる、学校は一切関わらないんですか。

○事務局 そうですね。地域クラブで出るのであれば、恐らく学校は関わらないことにはなと思います。ある程度学校は個人情報の話とかもあると思うので、そこは一定の御協力をいただかざるを得ないんじゃないかなという感覚はあります。

○委員 なるほど。ありがとうございます。

○委員 これも11年度からという想定なんですか。

○事務局 ここは、いつからとかは書いてありましたか。

○事務局 いつから開始といったところは書いてはいないんですけれども、予算を伴う話ですので、今年度という形ではなかなか難しいのかなというところであります。

○委員 もう夏休みに入っているので、来年度から例えば支援員の全国大会、関東大会への支給ができるようになると非常にありがたいなという気がしているので、だから全部一遍にぼんと決めちゃうんじゃなくて、ここの部分だけはこうしますよみたいな形の決め方もあるかなと感じました。

○委員 実情で教えてほしいんですけれども、全国大会へ行くクラブチームって、それなりに監督だとか顧問の先生が熱心で行っているパターンがあるのか、支援員の方の指導が強くて行けているのか、その辺はどんな感じですかね。逆に言うと、支援員の方がやっていけば、やっぱり大会まで当然ついていかないと、チームを持てないのかな、いろんな指導を含めてできないのかなって。ただ、学校の先生がそれを指導していれば当然行けますけれども、指導員だけで行けるケースはないのかなと。あと、先生が引率に必ずつくとな

ると、そこは先生方の負担は変わらないなとちょっと思ったものですから、実態としては、強いチームというのは教員の先生の指導、あるいは両方なんですか。どっちなんですか。

○委員 基本的に教員が下地をつくっているから強くなっているという形が多いのかなという気はしますけれどもね。

○委員 あと、競技とかにもよるのかなとは思いますが。ケース・バイ・ケースで、例えば武道、剣道、柔道あたりは、地域の道場とかが盛んだったりすると、その指導員の方とかが主となって学校の外部指導員になったりというパターンとかも聞きますので、そういったものもあるかなと。教員は管理顧問でみたいな。

○委員 そういう場合は、管理引率みたいな感じで、しなきゃいけないと要綱に書いてあるので、引率するんですけれども、1日座って見ているだけの引率もあります。

○委員 分かりました。練習試合に行くときもそうなんですけれども、基本的には先生がついていれば安全とか、先生がいなければ安全じゃないというその概念がよく分からないんですよ。指導員でも安全管理がちゃんとできる人であれば引率していいじゃないという思いがあるんです。要綱とか何かに書かれているのでやらざるを得ないところはあるんでしょうけれども、そういうところも奪回できれば先生方の負担はすごく減るのかなという気がします。これは意見ですけれども。

○委員長 ありがとうございます。

最後、言い残したこととかはありますか。よろしいですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 では、またこれは引き続き、御意見がございましたら、事務局のほうにメール等でいただければと思っております。

こちらが用意しました協議事項は以上でございます。ちょっと早めにスタートしましたので、協議会は終了とさせていただきますと思います。

続きまして、事務局より御連絡がございますので、よろしくお願いします。

○事務局 委員長、どうもありがとうございました。また、委員の皆様、貴重な御意見、様々御議論いただき、ありがとうございました。いただいた御意見につきましては、第3回以降の議論に反映してまいります。また、今もありましたが、追加で御意見等がございましたら、お寄せいただければと思います。

最後に、事務局より2点、御連絡でございます。

初めに、次回の協議会の開催についてですが、先日、メールでもお送りしておりますが、次回第3回の協議会は令和8年10月7日水曜日午後6時半から、本日と同じ会場で開催を予定しております。開催通知につきましては改めて御案内いたします。お忙しいところ恐縮でございますが、御出席いただきますようよろしくお願いします。

また、本日の議事録についてです。議事録の確認につきましては、準備が整い次第、速やかに各委員の皆様にお送りしますので、御確認いただきますようよろしくお願いします。

なお、議事録の公開について1点御相談なんですけれども、委員名を伏せた形で、皆様に御確認いただいた議事録をホームページで公開予定なんですけれども、その方法でよろしいでしょうか。最初、概要だと思ったんですけれども、ちょっとニュアンスとかが伝わりにくいので、皆様に御確認いただいた議事録をお名前を伏せた形でそのまま掲載したいと思いますが、よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○事務局 では、そのようにさせていただきます。よろしくお願いします。

では、事務局からの連絡は以上でございます。本日はどうもありがとうございました。

午後7時55分閉会